

科目名	保育・教職実践演習SC							
科目名(英)								
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志			
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所保育士13年間 幼稚園教諭3年間			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。従って、学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論などを組み合わせながら論文の作成を行っていく。							
授業形式	講義	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
				○		自らの学びを振り返り、保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を行う。		
				○		保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。		
				○		現代の保育士、幼稚園教諭に求められるニーズを正しく理解することができる。		
				○		自らの学びを深め、論文として発表することができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	1日目(卒業論文発表)						
	2	1日目(卒業論文発表)						
	3	1日目(卒業論文発表)						
	4	1日目(卒業論文発表)						
	5	2日目(卒業論文発表)						
	6	2日目(卒業論文発表)						
	7	2日目(卒業論文発表)						
	8	2日目(卒業論文発表)						
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
15								
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対しての意欲関心態度(3)卒業論文発表(4)卒業論文の内容で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	SCの出席					○	10%	
	取り組み、意欲・関心・態度				◎		30%	
	発表内容		◎		○		30%	
論文の内容	○	◎				30%		
履修上の注意	遅刻・欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位修得不可とする。							

科目名	社会的養護ⅡSC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	今までの社会的養護系の科目や児童福祉施設実習指導などを基に、実際の保育実習Ⅰ(施設)の前に今一度社会的養護についての知識・理解を深めると共に、実際の児童養護施設の施設見学や、施設長・職員の方の講話を聞き、社会的養護の現状やそこで働く職員の方の「想い」やこども達への処遇の実際を学ぶ事により、保育実習Ⅰ(施設)のイメージを作り、意欲的に実習に向かう為のSCとする。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	△ ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				児童福祉施設の種類やその目的について理解する事ができる	
		○				施設の見学を通して、児童養護施設の対象児の生活をイメージする事ができる	
	○	○				施設の見学を通して、社会的養護の目的や仕組みを理解する事ができる	
		○		○		講義・施設見学を通して、施設実習に向けての配慮点の理解や実習中の心得を習得する	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	嘉麻学園 見学・講義				スーツ着用	
	2	嘉麻学園 見学・講義				スーツ着用	
	3	嘉麻学園 見学・講義				スーツ着用	
	4	嘉麻学園 見学・講義				スーツ着用	
	5	嘉麻学園 見学・講義(振り返り)					
	6	嘉麻学園 見学・講義(振り返り)					
	7	社会的養護の現状と課題について					
	8	まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)施設見学の取り組み・意欲(2)振り返りの取り組み・レポート(3)SCの出席 以上を以下の観点・割合で評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	取り組み・意欲				◎		20%
	振り返りの取り組み・レポート	◎			○		30%
	出席				○	○	50%
履修上の注意	SCに欠席・大幅な遅刻の場合は近畿大学の規定により再履修となる						

科目名	音楽表現Ⅲ-②						
科目名(英)	Music Performance I						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子/小賀直美/石丸真理子/木下美智子/長谷川裕子/藤田一美/古田淳子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師(中村)		
対象学科・学年	こども未来学科3年生						
授業概要	保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかななくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。1年生の間は、とにかくピアノになれること、ピアノを嫌いにならないこと、楽譜を読めるようになること、正しい音程で歌えるようになること、等を目標にして授業を進める。3年生は更に、単位実習、採用試験、ピアノ発表会があるため、実習先からもらってくる曲や、採用試験曲を最優先に授業に臨む。後期は、採用試験、ピアノ発表会の曲を中心に授業を進める。						
授業形式	講義:	演習:	○	実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手スムーズな動き、10本の指のバラバラな動きのコントロール)	
	○					声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、正しいリズム感等)	
	○					ピアノ演奏における表現力の習得(強弱、スタッカート、レガート、マルカート、レジェロ等)	
			○			ピアノ練習は集中力の持続、向上心の維持を目標とする	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本、声楽教本</li> <li>・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック</li> <li>・チャイルド社発行/子どもの歌100</li> <li>・音楽之友社/ハイエル教則本・講師作成の楽譜(ファイル保管)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	後期授業ガイダンス				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	2	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	3	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	4	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	5	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	6	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	7	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	8	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	9	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	10	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	11	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	12	中間発表会				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	13	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	14	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	15	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	16	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	17	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	18	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	19	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	20	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	21	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	22	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
	23	発表会曲、採用試験曲の練習				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習	
24	ピアノ発表会				ピアノ発表会の自由曲練習、採用試験曲の練習		
評価方法	授業中の態度、意欲はすべて自分の演奏に反映するため、ピアノ発表会での演奏が自己の3年間の意欲の集大成である。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	ピアノ発表会		○				70%
授業の態度、意欲				○			30%
履修上の注意	ピアノの練習は、自分との闘いである。意欲を持って毎日練習することが必要。						

科目名	マナー						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	進ひろみ		
実施年度	2022年	実施時期	後期	担当者実務経験	一般企業、放送局に勤務		
対象学科・学年	こども未来学科3年生						
授業概要	福祉現場の「プロ」として働くことのできる人材として活躍するためには、信頼され、好感を持たれ、より良い人間関係を築くことが重要である。、そのため、即戦力として不可欠であるビジネスマナーの習得を目指す。グループワークやロールプレイングを通しコミュニケーションの基礎となる立ち居振る舞い、言葉遣いの基本を身に付け、知識だけではなく現場で実践できることを目指す。						
授業形式	講義	演習:	○	実習:	実技:	△ ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				実習生の品格、社会人としての心構えを理解することができる	
	○	○				電話対応、訪問時の正しい言葉遣いについて理解し実践することができる	
			○			感じの良い立ち居振る舞いについて理解し実践することができる	
	○					好感・信頼感を持たれる言語コミュニケーションを理解し実践することができる	
			○			実習での正しいマナー、報告・連絡・相談の重要性について理解し実践することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 社会人の心構えとマナーの必要性について					
	2	感じの良い立ち居振る舞い(表情・挨拶・態度・物の扱い)					
	3	職場の人関係 指示の受け方 報告の仕方					
	4	感じの良い言葉遣い 敬語の知識①					
	5	感じの良い言葉遣い 敬語の知識②					
	6	電話対応(取り次ぎ)①					
	7	電話対応(取り次ぎ)②					
	8	接待(お茶の入れ方、出し方、いただき方)					
	9	冠婚葬祭のマナー・確認テスト					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	グループワーク・発表・提出物				◎		30%
履修上の注意							

科目名	ペン字Ⅱ－②						
科目名(英)	Penmanship Ⅱ－②						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	入江 陽子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	書道講師38年		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者として、業務遂行時に実践できる応用力を習得する</li> <li>・正しいペンの持ち方・姿勢を守り書写する事により集中力をつける</li> </ul>						
授業形式	講義	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					正しい言葉遣いで書写する事ができる	
		○				作文に於いて、自分の考えをまとめ、表現する事が出来る	
			○			書式に従って、美しい文字で書写する事が出来る	
			○			正しいペンの持ち方・姿勢で書写する事が出来る	
			○			集中力を持って取り組む事ができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ペン字の応用－大字練習・平仮名名前			マジックを用意しておく		
	2	ペン字の応用－小字練習・おたより帳			平仮名の復習をしておくこと		
	3	ペン字の応用－手紙・就職採用お礼状			小字、練習、復習をしておく		
	4	ペン字の応用－作文・就職試験演習			お礼状を清書しておく		
	5	ペン字の応用－作文			作文提出出来るようにしておく		
	6	実用書－年賀状			年賀状例を用意しておく		
	7	実用書－掲示物を書く			年賀状を提出出来るようにしておく		
	8	実用書－えとカレンダー書き			人前で行動できるようにしておく		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で実施する作文と実技課題(お礼状・年賀状) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品	○		◎			80%
	小テスト		○		◎		20%
履修上の注意	黒の水性ボールペン・黒マジック・筆ペンを用意 最終回は年賀状のはがきを用意 筆ペンやカーペンで年賀状を仕上げるつもりでいる事						

科目名	障害児保育Ⅱ						
科目名(英)	Childcare for Children with Disabilities Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	療育センターに2年間、保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	本講においては、発達に弱さをもっている子どもたちについて「言葉」という観点から、講義を進めていく。言葉が生まれる背景として、子どもたちの生活の中に誰かに伝えたいような「感動」がちりばめられていること、生活リズムの大切さ、子どもの心と体を育む遊びなど”感覚統合理論”をベースに学んでいく。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		◎		障害児の保護者の気持ちを理解し、保育者としてどのように気持ちに寄り添うべきかを知る。	
	◎	○				感覚統合理論について理解し、障害を持った子どもの生活や遊びを考える際に生かすことができる。	
	◎	○				障害児療育におけるさまざまな方法論を知り、概要について説明できる。	
		○		◎		子どもたちの日々の生活が、そのまま療育であることを理解し、実践に生かそうとする。	
テキスト・教材 参考図書	教員準備のプリント 「ことばをはぐくむ -発達に遅れのある子どもたちのために-」 中川信子著 ぶどう社 1986年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、アンケート					
	2	文献講読1(子どもの言外の気持ちを読み取ること)					
	3	文献講読2(感覚統合理論1)					
	4	文献講読3(感覚統合理論2)					
	5	文献講読4(子どもの摂食行動と言葉)					
	6	文献講読5(子どもの豊かな生活と脳を育てること)					
	7	アンケートのフィードバックとディスカッション					
	8	少し大きくなった子どもたちの生活(DVD視聴・感想文)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業への意欲 40%、②発表 30%、③感想文 30%の3つの観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業への意欲		○		◎		40%
	発表	○	◎				30%
	感想文	◎			○		30%
履修上の注意	3回以上欠席の場合、単位修得は認められない。						

科目名	保育実技Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所保育士として13年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	<p>・教育・保育実習で知り得た現場の保育者の職務に役立つような、技術・記録の方法について学ぶ。          ・介護等体験を経験し、対人援助職としての見識を豊かにする。</p>						
授業形式	講義	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○		○	様々な保育の技法を知り、実践を通して理解を深める		
		○		○	様々な保育の意義、ねらいを理解し、その手法について学ぶ		
		○	○		介護等体験を通して、身体障害を有する子ども、また高齢者への理解を深める。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保育における記録について学ぶ(日誌・個人経過記録等)					
	2	保育における記録について学ぶ(連絡帳)			実践に必要なものを準備		
	3	保育イラストの描き方について(講義)			実践に必要なものを準備		
	4	保育イラストの描き方について(実践)			実践に必要なものを準備		
	5	介護等体験(1)			実践に必要なものを準備		
	6	介護等体験(2)			実践に必要なものを準備		
	7	卒業製作について			実践に必要なものを準備		
	8	卒業製作について			実践に必要なものを準備		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度 ②発表・作品 ③実践への取り組み以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度		◎		◎		40%
	発表・作品		◎		◎	○	30%
	取り組み		○		◎		30%
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位は付与しない						

科目名	児童家庭福祉Ⅱ						
科目名(英)	Child and Family Welfare Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	郡嶋かおる		
実施年度	2022年	実施時期	後期	担当者実務経験	障がい児者施設指導員後大学教員		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	こども家庭福祉Ⅰで学んだ内容を基底にして、深化させていく。国はどのような対策を進めているのか、何のために法律や制度があるのか、問題解決のためにどのようにしていけばよいか。すべての子どもや親の幸福について身近な側面から考える。また、グローバルな視点をもつ。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代社会で子ども家庭にどのような課題が生じているか説明できる。	
	○					発展途上国における子どもの置かれている状況について説明できる。	
	○					子ども虐待の現実と貧困の関係について考え発表することができる。	
	○	○				人口減少の時代の背景および何が問題か説明できる。	
			○			積極的に質問、発言することができる。	
テキスト・教材 参考図書	シードブック 浅井 春夫『子ども家庭福祉』第三版 建帛社 「2020年版『医療福祉 総合ガイドブック』」編集 NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会 社会福祉の動向(中央法規) 国際関係のなかの子ども(お茶の水書房)等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	①当該科目で学ぶ内容、進め方について理解する。 ②コロナウイルス感染症が子ども家庭福祉にどのような影響を及ぼしているのかについて考える。				・自己紹介シート、振り返りを記入。	
	2	①人口減少時代を生きる(少子化 何が問題?) ②少子化社会の中の少子化対策・保育政策 ③現在、結婚、仕事、出産、子育てを個人のライフスタイルの一つの選択肢として選ぶ傾向にある。それについてどのように考えるか。また、男性の育児休業取得についてなど、家族の変化について。				・シラバスターマールを配布。 ・子ども虐待の急増と社会的関係について調べて次回提出。	
	3	貧困・格差の中に生きる子どもたち ①日本の子ども虐待の深刻な現実と貧困 ②法制度と行政 子ども虐待、ドメスティック・バイオレンス等					
	4	増え続ける児童虐待相談対応件数と減らない児童虐待死亡数				振り返り記入	
	5	子どもの人権国際法、国内法に描かれる子どもの人権(どんな現実があるか、報道された施設内虐待)、人権侵害				インターネット等でどのような施設内虐待が行われているかを調べて提出する。	
	6	貧困問題と世界の子ども(すべての子どもに子ども時代を) 日本はどのような役割を果たすことができるか					
	7	こども家庭福祉に尽力した先人から学ぶ					
	8	こども家庭福祉のこれから					
	9						
	10						
	11						
	12						
13							
評価方法	(1) 毎回、授業のテーマに関して考える。 (2) 毎回、振り返り記入もしくは感想を発表する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	試験レポート		◎		○		60%
	ふりかえり		◎				10%
	課題レポート	○	◎				20%
発表・作品				◎		10%	
履修上の注意	※報道で取り上げられた子ども家庭に関する記事から、学びを深めていく。 ※最も関心をもった内容についてレポート、小冊子にする。						

科目名	一般教養Ⅲ-②						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて 介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園・幼稚園で行われる季節ごとの行事(五節供、お月見、お正月など)について、由来や行事の意味を理解し、将来の保育に活かす</li> <li>・季節ごとの祭りの由来や意味、遊びなどを知ること、それぞれの季節に合った保育や遊びの参考にする</li> </ul>						
授業形式	講義 ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○				目標		
	○				季節ごとにどのような行事があるか説明できる		
	○				各行事の意味や由来を説明できる		
					季節ごとにどのような遊びがあり、保育を行う上でどのように活かせるか、例を挙げることができる		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	年中行事 お正月① - お正月の由来					
	2	年中行事 お正月② - 新年を迎える準備					
	3	年中行事 お正月③ - お正月の食べ物・風物					
	4	五節供① - 人日・上巳					
	5	五節供② - 端午・七夕・重陽					
	6	お盆①					
	7	お盆②					
	8	その他の行事 - 七五三・母の日・父の日・敬老の日・勤労感謝の日など					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	定期試験(筆記)を実施し、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	自主実習演習							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志			
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	幼稚園教諭として幼稚園に3年間、幼保連携型認定こども園に1年間勤務			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	就職内定に向けて、施設や事業所、会社等において自主実習を計画的に実施する							
授業形式	講義	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
				○		希望就職施設または企業から内定をもらう。		
テキスト・教材 参考図書								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	2	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	3	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	4	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	5	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	6	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	7	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	8	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	9	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	10	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	11	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	12	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	13	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
	14	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
15	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)							
評価方法	活動報告書がない場合は出席とみなさない。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	出席状況				◎		70%	
	活動報告書	◎					30%	
履修上の注意								

科目名	選択授業						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村仁美・下川武志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設保育士・保育所保育士		
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	保育現場での特にクラス運営に関わる部分の保育者の仕事を理解し、就職後すぐにクラス担任として業務に携わっていただけるようにするための知識、技術を習得する。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				保育における記録の重要性を理解しそれぞれの役割を知る。	
	○	○				クラス作り作成の概要を知り、大まかな作成が出来るようになる。	
		○	○	○		保育者として、社会人として必要な言葉遣い、態度を身につける。	
テキスト・教材 参考図書	必要に応じて指示する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション					
	2	クラス便りに必要な要素について					
	3	クラス作り作成				作成に必要な道具等の準備	
	4	クラス作り作成				作成に必要な道具等の準備	
	5	園での電話対応について、クレーム対応について					
	6	要録、年間指導計画、月案、週案について					
	7	病気、ケガの応急処置について					
	8	連絡帳の書き方について					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度 ②発表 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度		○		◎		40%
	発表・提出物		◎		◎	○	30%
	取り組み	○	○		◎		30%
履修上の注意	3回以上の欠席で単位取得は認めない。						

科目名	卒業論文Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所保育士13年間、児童福祉施設保育士6年間		
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	3年間の学修に基づき、興味のあるテーマについて実践と理論を結び付け、エビデンスを基に科学的に論じる方法を学ぶ。単著とするか共著とするかは、学生が選択する。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	証明したいことがらについて論理的に述べるができる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	論文の中において、説得性のある資料提示ができる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	論文の構成について構想することができる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	共著とする場合、分担しながら協力して作業を進めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	先行論文研究					
	2	先行論文研究					
	3	先行論文研究					
	4	先行論文研究					
	5	先行論文研究					
	6	先行論文研究					
	7	先行論文研究					
	8	先行論文研究					
	9	先行論文研究					
	10	論文の構想(単著にするか共著にするか)					
	11	先行論文研究					
	12	先行論文研究					
	13	先行論文研究					
	14	進捗状況報告				発表に向けてプレゼンテーションの準備をする。	
	15	論文執筆開始					
	16	先行論文研究					
	17	論文執筆開始					
	18	論文執筆開始					
	19	論文執筆開始					
	20	論文執筆開始					
	21	論文執筆開始					
	22	仮査読					
	23	修正					
24	論文提出・発表会						
評価方法	評価は以下の通りとする。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	論文審査	◎	○		○		70%
	取り組む態度	○	○		◎		10%
	プレゼンテーション力	○	◎		○		20%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位修得不可とする。						

科目名	就職実務Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所保育士13年間、児童福祉施設保育士6年間		
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感もてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職活動指導①(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと企業HPをみておくこと		
	2	就職活動指導②(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと企業HPをみておくこと		
	3	就職活動指導③(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと企業HPをみておくこと		
	4	就職活動指導④(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	5	就職活動指導⑤(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	6	就職活動指導⑥(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	7	就職活動指導⑦(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	8	就職活動指導⑧(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	9	就職活動指導⑨(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	10	就職活動指導⑩(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	11	就職活動指導⑪(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	12	就職活動指導⑫(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと面接で話す内容を考えておくこと		
	13	就職活動指導⑬(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと面接で話す内容を考えておくこと		
	14	就職活動指導⑭(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと面接で話す内容を考えておくこと		
15	就職活動指導⑮(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと面接で話す内容を考えておくこと			
評価方法	(1)提出物は各期限を設定する (2)ホームワークを数回実施する (3)自習・行事を数回実施する以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	欠席が6回以上となる場合は、単位は修得できない。						

科目名	保育相談支援					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	門田 雄一	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	ゆたか学園元園長	
対象学科・学年	こども未来学科 3年生					
授業概要	保育所利用の保護者および地域の子育て中の親の種々の悩みに対して、相談支援のあり方を学ぶ。					
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					相談支援の在り方を学ぶ。
	○					社会保障制度の概要を学ぶ。
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	保育相談支援の考え方を知る。				
	2	被相談者の態度等を学ぶ。(自己覚知)				
	3	保育相談支援の考え方を知る。(過程・方法を知る。)				
	4	保育相談支援の考え方を知る。(具体的対応方法を知る。)				
	5	日本の社会保障制度の概要を学ぶ。				
	6	ケース研究(保育所保護者の悩み)				
	7	ケース研究(社会福祉に関する悩み)				
	8	ケース研究(生活保護・高齢者福祉について)				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	(1)定期試験(2)授業中の意欲・態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎				
	態度・意欲				◎	
履修上の注意						

科目名	自然体験基礎						
科目名(英)	Nature Experience Basic						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて 介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 3年						
授業概要	様々な自然体験を通して、自然に対する知識、経験を得ることで、保育者になった際に子どもたちに対し適切な自然環境との関わりを持てるようになる基礎を培う。 また、事前学習、事後学習によって経験と知識の定着を図りより実践的な学びを行っていくことを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				幼児期に自然環境と関わることの重要性について理解し述べる事が出来る	
	○	○				自然環境、個人の能力差、体力差などに配慮し登山計画を立てることが出来る	
		○	○	○		様々な事象に配慮しながら安全に登山を行うことが出来る	
		○	○	○		身近な自然に触れて命の尊さや優しい心をもつことの大切さを再認識することが出来る	
	○	○	○	○		5領域「環境」について理解を深め子どもとの関わりに活かせるようになる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自然体験、実体験の重要性について					
	2	調べ学習、登山計画作成					
	3	登山(宝満山)			登山に必要な用具、服装等の準備		
	4	登山(宝満山)			登山に必要な用具、服装等の準備		
	5	登山(宝満山)			登山に必要な用具、服装等の準備		
	6	登山(宝満山)			登山に必要な用具、服装等の準備		
	7	自然体験の重要性に対する考察まとめ					
	8	発表、プレゼンテーション			PP作成を仕上げておくこと		
	9	身近な自然について調べ学習(季節の草花や昆虫等)					
	10	学校周辺散策(公園)			活動に必要な用具や服装等の準備		
	11	学校周辺散策(公園)			活動に必要な用具や服装等の準備		
	12	学校周辺散策(河川敷)			活動に必要な用具や服装等の準備		
	13	学校周辺散策(河川敷)			活動に必要な用具や服装等の準備		
	14	考察・まとめ					
15	発表、プレゼンテーション			PP作成を仕上げておくこと			
評価方法	①授業態度 ②発表 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		30%
	発表	○	◎				30%
	取り組み		○	◎	◎		40%
履修上の注意	登山の実践は1日(4コマ)の活動とする						

科目名	交流ゼミⅢ							
科目名(英)								
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村仁美・下川武志・稲永奈歩			
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	上村/児童養護施設保育士 下川/保育所保育士 稲永/幼稚園教諭			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを構成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行っていく							
授業形式	講義	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図る事ができる		
				○		物事の段取りを修正しながら臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行する事ができる		
				○		物怖じする事なく、積極的にレクリエーションに参加する事ができる		
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営する事ができる		
				○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	3学年全体でのレクリエーション						
	2	3学年全体でのレクリエーション						
	3	グループ内でのレクリエーション						
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備						
	5	交流会への実践						
	6	交流会への実践						
	7	交流会への実践						
	8	交流会への実践						
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢・態度を重視する。評価は出席状況にて「R」(履修)評価とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	姿勢・態度				◎		100%	
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。							